

図書館 利用者の 声

紙は枯野をかけ廻る

教育学部 モリモト タク
生活社会教育講座 森元 拓 教授

私の図書館活用術

医学部看護学科 イトウ アイナ
4年 伊藤 愛菜

図書館って、どういう場所だと思いますか？ もし、図書館を「自習室」としか考えていないのであれば、それは本当に勿体ない話です。何故なら、古今東西のあらゆる書籍や論文を参照できる図書館は、巨大な「知の世界」への入口だからです。

大げさじゃないかって？ 確かに、図書館の所蔵数は限られています。しかし、利用者サービスの「文献複写／現物貸借」を利用すると、他大学や国立国会図書館などに収蔵されている書籍や論文をコピーしたり、取り寄せたりすることができます。これによって、全国の図書館が収蔵する書籍や論文を居ながらにして参照することができます（私は活用しまくっています）。図書館は巨大な「知の世界」への入口です。

その上、図書館には、「知の世界」を探索するための優秀な「水先案内人」が居ます。カウンターの司書さんです。彼ら／彼女たちは我々の「知の世界」の探索を助けてくれます。司書さんに探している文献や論文について相談してみてください。たちどころに適切なアドバイスをくれるはずですよ。皆さんも、是非、利用してください。

松尾芭蕉は、「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」という辞世の句を詠みました。『おくの細道』をものした松尾らしい句ですが、松尾の時代に図書館があったなら、松尾は、旅に出なくとも世界中の知に触れることができたのに、とってしまします。現在の我々はコロナ禍で旅行ができない状況ですが、折角ですから、これを機に、図書館を利用して「知の世界」の探索を楽しんでみてはどうでしょうか。



突然ですが皆さんは「図書館」と聞いて何を想像しますか？ きっと多くの方が、本を借りることを想像すると思います。勿論、図書館利用者の多くが、本を借りるために図書館を訪れると思います。しかし、私の大学生活を振り返ると、本を借りる以外にも様々な事で図書館を利用していました。そこで今回は、私の図書館活用術を紹介します。

例えば臨地実習時です。山梨大学では多くの学生が実習を経験しますが、医学分館は医学部附属病院に隣接し、24時間図書館を利用出来る利便性があります。そのため私は、早朝図書館へ行き自宅にはない緊張感の中で学習することで、実習につきものの眠気に襲われるのを防いでいました。また、学内に設置されているどのパソコンからでも印刷出来る図書館のプリンターもよく利用しました。学生は何かと印刷する機会が多く、急に印刷が必要な時は学内にいるパソコンからプリンターへ送信し、図書館までダッシュしていました。

他にも、借りた本が多い時にはカウンターでバッグを借りられたり、看護研究時は何十件と論文を取り寄せたりと、図書館はまさに私の学びを支えてくれた場所だと思います。今回は私の活用術を紹介しましたが、図書館利用者それぞれに違った活用術があり、活用の仕方だけ魅力も様々あると思います。そんな魅力溢れる図書館を利用出来ることや、図書館を支える職員の方々に対し感謝を忘れずに、まだ見ぬ活用術を探しつつこれから先も利用していきたいです。